

九月議会報告

- ① 九月議会に提出された議案は二十三件。主な議案は、火災予防条例の一部を改正する条例の制定
 - ② 工事請負契約の締結（久寺家ポンプ場改修工事一億四千万、若松ポンプ場改修工事二億二千五百、若松配水管工事二億二千五百）
 - ③ 布佐ポンプ場築造工事の契約変更（八億一千七百万→十億一千六百万（一億九千九百万の増））
 - ④ 市道路認定（四路線）
 - ⑤ 平成二十四年度一般会計補正予算（十一億五千六百万追加し、総予算を三百六十四億四千万に）
 - ⑥ 平成二十三年度一般会計決算の認定・他特別会計の認定（継続審査）などです。
- 主な争点は、次の通りです。一つは、布佐ポンプ場築造工事で行うことになった（右記③）理由についてです。設計段階で地盤の予測の甘さ（軟弱地盤であることが判明）に加えて、議案可決前に既に工事着手しているという事実が判明したこと、所管の常任委員会でも否決されました。二つ目は、高濃度放射線量を含む焼却灰一時保管場所に関して、後述するように、千葉県が条例違反をしてまで異例の工事着手に踏み切ったことへの市と市議会の対応策が争点となりました。
- また、請願関係では、「機能性低血糖症」に係わる国の取り組みを求める請願、「東海第二原子力発電所の廃炉を求める意見書提出」を求める請願（発議案二件）が、全会一致で可決されました。

その他、以下の計画が市議会に提出されています。

- ◎「我孫子市放射能対策総合計画」（平成二十四年九月～平成二十六年三月）

この計画は「我孫子市放射能物質除染実施計画」を包含するとともに、各分野で取り組んでいる放射能対策を総合的・計画的に推進し、我孫子市の放射能対策を強化するために策定されました。

◎「我孫子市立小中学校通学区域見直し実施計画」（根戸小・第四小・新木小・久寺家中のそれぞれの通学区域の一部見直し）

この計画は生徒数の増加による教室不足や児童数・学級数の減少という課題に対処するため通学区域の変更にあたってのスケジュールや変更内容の詳細を明らかにしたものです。



印南 宏が九月議会、「総務企画常任委員会・予算審査特別委員会」で質問した骨子

- 我孫子市議会には三つの常任委員会（総務企画・教育福祉・環境都市）が設置されています。全議員が必ずどれか一つの委員会に所属しています。常任委員会は一般質問とは異なり、時間の制限がなく事前通告もありません。所管事項に関して、より掘り下げた議論・提言等を行うことができます。
- 私は総務企画常任委員会・予算審査特別委員会において、以下に関する質問と提言等を行いました。詳細は議会日より、HP等をご覧ください。
- ◎【総務企画常任委員会】
 - 人口減少問題と対応策について
 - 庁内検討委員会のあり方
 - 千葉県人口動態分析検討会議の活用
 - 新たな文化会館の整備促進
 - 我孫子市文化施設整備庁内検討委員会
 - 整備手法と財源
 - 新たな視点「にぎわい」と文化会館
 - 空き家の適正管理について
 - 徹底した実態調査の必要性
 - 条例化の道
 - 根戸で発生した火災について
 - 市境の消防のあり方
 - 普段の点検作業
 - 再発防止策
 - 地域防災計画と防災訓練

- 平和台自治会の総合防災訓練
 - 我孫子市の総合訓練のあり方
 - 地域防災計画の進捗
- 【予算審査特別委員会】
- ◎ 新しく始まる「不活化ポリオワクチン接種事業」について
 - ◎ 正確な知識の情報提供
 - ◎ 国の補助をもらう努力を
 - ◎ 委託料の算出根拠
 - ◎ じん芥処理放射能対策
 - ◎ 焼却灰の委託のあり方
 - ◎ 焼却灰の安定的な処理について

元気を頂いた山中氏のノーベル賞

十月八日、山中伸弥氏（五十歳）がノーベル医学生理学賞を受賞されました。「夢の万能細胞」「再生医療の切り札」と呼ばれるiPS細胞の論文発表から、わずか六年のスピード受賞は大変珍しいと報道がありました。私は難しい「細胞」のことは良くわかりませんが、身近な病気から難病までの多くの患者

さんの期待と関心がこのIPS細胞に寄せられている事に間違いなく思っています。今後は一刻も早く、臨床医学の分野、実際の医療に使えるように、さらなる研究が進んで行くよう心から願っています。

それにしても、テレビ等で拝見した山中先生は、とてもさわやかで、学生時代はラグビー、今もマラソンを走る姿など、文武両道の好感度抜群の人柄でした。先生の歩んできた道を伺うと、「どんな優秀な人間でも、人生ではいろいろな浮き沈みがある」ということを知りました。

先生はスポーツ選手を治療する整形外科の臨床医を志しました。整形外科の臨床医を志しました。が、挫折を経験しています。うまくやれば二十分の手術に二時間もかかったことで、先輩医師からは邪魔で「ジャマナカ」という異名までもらったというエピソードには驚きました。その後、臨床医になる夢をあきらめて、研究医に転身したことで、今回の偉業へとつながりました。

まさに先生が大好きだという言葉「人間万事塞翁が馬」、だから人生は面白いとあらためて感じました。普段から失敗の連続や仕事が多く行かないなど悩みの多い私にとつて、新たな勇氣と元気をいただきました。

これまで支えてくれた人々への感謝とこれから果たすべき患者さんへの責任、「感謝と責任」を合言葉に、これからも精力的に研究を続けていくと宣言する山中先生。私も明日を信じて、

先生のようにな、これからも元気に活動していきたいと思っ

♪ ぜひご覧下さい!!! ♪

印南宏ブログ
<http://hiroshi4649.at.webry.info/>

我孫子市 公式ホームページ
<http://city.abiko.chiba.jp>



焼却灰一時保管場所の行方
 二回目の住民説明会

高濃度放射線物質(八千ベクレル/キ超)を含む焼却灰の一日保管問題で、千葉県は九月十日夜、保管場所の建設を予定している手賀沼流域下水道対象沼とした二回目の説明会を布佐南小の体育館で行ないました。説明会の約四時間、午後六時から行なわれました。地元百四十名を超えました。私も含め、自然災害があつた場合、絶対安全とは言えない。説明会は終始始まりました。

しかも、千葉県は、この説明会の当日(九月十八日)、建築確認の関係書類を、条例で窓口と定めた印西市を通さずに、県印旛土木事務所(佐倉)に直接出している。この地元説明会が何のために開かれているのか、アリバイづくりのための説明会なのか、強引な千葉県のやり方に多くの市民は今、不信感を強めています。

暴挙と抑圧の
 千葉県の行動

その後、県土木事務所は異例の速さで建築確認済証を交付し、千葉県は、九月二十一日(金)の我孫子市議会開催中に突然、工事に着手した旨の通知一枚を市に送り届けるなど、説明会や条例による手続きを無視した暴挙ともいえる行動に出ました。手賀沼終末処理場(印西・我孫子市境)に一時保管施設を建設する際には地元自治体に建設許可申請を提出、建築確認の手続きを行う必要がありません。今回、建築確認の受理権を持つ印西市を通すことなく、千葉県が勝手に建築確認手続きを行ったことは、まさに「条例違反」となり、違反を認めています。千葉県は都市計画法第六十五条の申請をしないことに加え、建築確認申請では審査権を持つ千葉県自ら「条例違反」を犯すなど、法令遵守すべき千葉県自身が行ってき、この千葉県が今日まで行ってきた

平和台雑感

た一連の行動に、多くの市民が異議を訴え、「地元の反対に耳を貸さない千葉県の建設計画」を白紙撤回すべきとの声が湧き上がっています。

私たちが我孫子市議会は全員でこの問題に立ち向かい、市民の皆様と一緒に説明責任を持つ市議会として取り組んでいく覚悟です。市民の皆様のお力強いご支援とご協力をお願いします。

日本は地震大国。いつでも、どこでも地震が発生する地震列島だと、言われている。先月、私が住む、布佐平和台自治会は、地震発生するか予測が出来ない地震に対して、総合防災訓練を行つた。今回は、震度六強の地震が十三時三十分、発生し、自治会の約半数以上が被害を受けた。この約半数以上が被害を受けた。世帯を対象に、班長による安全確認の実施、その結果を地区支部へ報告、各支部が集計した情報を対策本部へという一連の流れを実施すること、防災体制の組織化の基本的な理解してもらおうことを目的とした。布佐平和台自治会は団地の中央を東西に走るメイン道路(やすらぎの道)に沿って、約二キロメートルにわたる千三百九十五戸、平屋の住宅団地。その為、災害に際しては、全世帯の被害状況を確認し、把握して会員の生命財産を守るため

めには、防災体制を組織化する必要がある。自治会内に九箇所の支部を設置し、防災対策本部を自治会館に置く形で総合防災訓練は行われた。◆自治会内には半径二百メートルを基準に九箇所の公園に防災倉庫を設置してあり、各種災害活動を行う拠点として支部を立ち上げるようになっている。各支部との情報伝達は携帯電話が使えないことを想定し、トランシーバーを使っている訓練となった。訓練の内容は無線機の使い方、テントの張り方、発電機、災害救助工具、毛布担架の作り方などの各種訓練である。◆私も自治会の防災スタッフの一員として参加。安全確認、消化活動、救出救助活動等を速やかに実施するために日頃から、各種訓練をしつかりと行っていくことの必要性を体感することができた。今回の総合防災訓練は二百人を超える班長さんを始め、理事や防災委員の皆さんを始め、多くの自治会役員、皆さんの多くが行われた。今回の総合訓練で出された多くの意見や反省点を大切な生命や財産、安全が守れるように活かすことが今、強く求められている。

◆私が卒業した工業高校が来年創立五十周年を迎える。私は同窓会の役員として五十年という節目の記念事業の実行委員にもなっている。先日、母校で行われた実行委員会に出席。懐かしな母校での会議、私が学んだ年代は昭和四十四年から四十七年頃、あの頃と校舎は、ほとんど

変わってなかったが、通学路や周囲は大きく変貌していた。最も寄り駅から学校まで、私が通学していた頃は田圃のあぜ道のようになり、道路はすべて舗装され、現存には住宅が密集している。突如、高校時代の懐かしい思い出が私の脳裏に蘇ってきた。それは高校の文化祭の当日、その頃、私は生徒会長を務め、文化祭の実行委員長をしていた。完全な男子校であった我が校に一年に一度、他校の女生徒が大勢来校してくる一大イベントの文化祭。前日まで降った大雨で学校までの通学路には大きな水たまりがあちこちにできていた。何とかしななければ、そこで急遽、私たち実行委員(生徒会役員)は学校の渡り廊下を、いくつもリヤカーで持ち出し、ぬかるんでいる道を安全に渡れるようにと早朝から一斉に道路整備に励んだ。みんな一生懸命、汗を流し、文化祭を成功させようという一念で行った作業だった。おかげで文化祭は成功裡に終了。あの頃の懐かしい青春の思い出である。◆千葉県は今年四月、県内の人口減少の要因を分析する「千葉県人口動態分析検討会議」を設置。我孫子市でも今日まで経験したことのない人口減少が始まった。人口減少は即、税収の減につながり、持続可能なまちづくりが赤信号が灯る。文化促進のため、九月議会の市政報告では遅ればせながら、年内に定住

会」を立ち上げると発表。我孫子市では、昨年度は人口の転入が減り、転出超過となっている。転出の中心は、二十代、三十代が約八割、その他の世代が二割弱となつていて、検討委員会による詳細な分析結果が待たれるが、若者世代の定住化に向けた魅力あるまちづくりが急務となっている。子育て支援策の充実、交通や買い物など日常生活の利便性向上もポイントとなる。対策は、これを一つやればと良いという単純なものではなく、地道で総合的なまちづくりが必要である。今後、事業選択のポイント、新たな施策の必要性、既存事業のリストラなど早急な対策の実施が求められている。◆「新たな文化会館」を市単独で整備する方向で検討していくため、市内に文化施設検討委員会を立ち上げ、八月三十日に一回目の検討委員会を開催した。市民会館の建設は市長の公約のひとつでもあり、我孫子を魅力あるまちにするための文化事業の拠点として市民のニーズが大変高い事業である。旧市民会館は平成十九年三月に閉館となり、既に五年間が過ぎた。その間、市議会では「市民会館早期再建に関する要請について」の陳情書を全会一致で可決。市民会館閉鎖後、千人規模を対象とした小中音楽発表会、コンサートは市の近隣の文施設で開催。午式・午後と二回に分けて実施。文化団体では催し物を一部取り

印南 宏後援会

〒270-1198 我孫子市日の出 1131
(日本電気労働組合我孫子支部内)

Tel 7184-2860

印南 宏 自宅

布佐平和台7-1-18

Tel 7189-1598

e-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp

HP <http://www7b.biglobe.ne.jp/~innami-hiroshi/>

ブログ <http://hiroshi4649.at.webry.info/>




宏

やめて行政(柏市と共同)で建設を地域行政から、完全に元に戻り、市単独で建設することになった。今、必要なのは、建設するに当たっては、市民に建設する目的の手法の工夫と市民に建設する目標年度を明らかにしていくことが大事である。人口減少の柱づくりでも文化・スポーツの拠点づくりは大切である。文化の拠点が傾注する時がきている。